



## 輝く日々に

「アルジャーノンに花束を」の準備は、やはり3年生ともなると去年とは全然違って、しっかり計画的に進んでいるようだ。

35Rでは、廃棄するロッカーを活用するアイデアを思いついて、他クラスとともにその準備を進めてきた。ただ、担任も連絡不足（イイ意味で君たちを信頼している）から、6本の廃棄ロッカーを舞台そのものとして使うとは思ってもいなかった。そもそもがベニヤの節約と聞いていたので、まあ、舞台両袖の衝立代わりに2本くらいを活用するのだろうと思っていたので、学年主任から「舞台として使っており、床に傷がつきそうだ」「仮設校舎から本校舎へ引越した後、どこに6本ものロッカーを保管するのか」「星陵祭の後はどうやって廃棄するのか」といった問題があるという連絡を受けた時は、ちょっと困ってしまった。というか、ロッカー使用を止めさせて、今ならまだ間に合うから別の方法を考えさせようかと考え始めていたのである。

ただ、その後すぐ●●くん（黒丸）に連絡をとったら、それぞれの課題に対する自分たちなりの解決策を用意していたし、すでにその舞台での練習も進んでいるようだったので、何とかそれを実現させる方向で調整してみようという気になり、関係各所に相談して回ることにした（逆に引越時期でもあったことから、まだ部屋内部の配置がはっきり決まっていない国語科倉庫を、国語科主任としての立場を悪用？して、うまく使うことができたのはラッキーであった…笑）。

ちなみに、●●くんたちは私が旅行中だったこともあり、校長にも相談に行ったようだ。校長は、生徒たちの自主的な努力や工夫を尊

重する方だから、すぐに結論を出すことはなさらないにせよ、前向きに受け止めて下さり、担任を含めてクラスでもう一度問題点を検討することを前提に、君たちのアイデアを生かす方向性を示して下さいましたよかったですと思う。

まあしかし、こういう課題が生じたということは、それだけ準備が進んでいるということの証拠でもあろう。28日のリハーサルは、もう2年生レベルでは完成の段階に達していたと思う。私個人としては、後半にもっと楽しい要素（笑いや踊り）が加わった方が、見ている人の感情が波立ち（マイナス←→プラスを大きく行き来し）、それがクライマックスの感動に結びつくのではないかと感じたので、そう感想を述べておいた。チャーリーの知能の変化をどう台詞で表現するのか、音響が大きすぎて台詞が聞こえにくかったところ、早口になってしまったところ、演出がわかりにくかったところ（特にアルジャーノンをどうするか）といった課題も提出されたので、それぞれ改善しながらさらに完成された舞台にしてほしい。

リハが終わった後、役者や照明・音響・大道具など、みんなで集まって意見を出し合っている姿を見るにつけ、「日比谷生っていいなあ…」「やっぱり演劇っていいなあ…」、そして「35Rっていいなあ…」と思うのである。こんな素晴らしい経験ができるのも、本当にあと数日しかない。受験なんて何度でも？できるが、星陵祭はあと一回だけ。その思い出で、これからの苦しい日々が乗り越えられるような、そんな輝く日々にしてほしい。